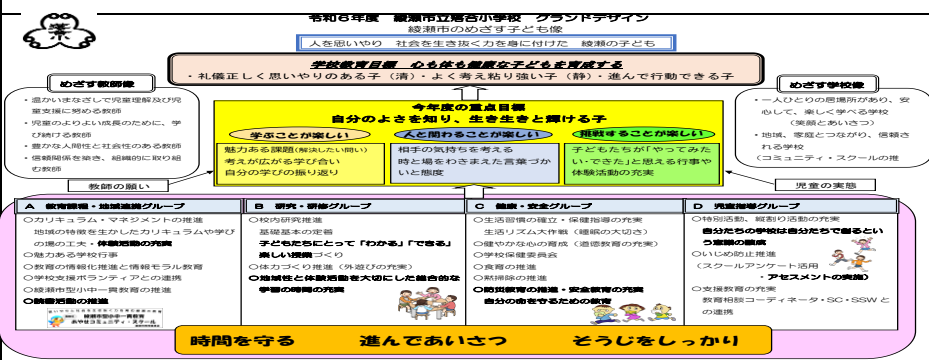


綾瀬市教育委員会の基本方針	(学校教育分野) 人を思いやり 社会を生き抜く力を身に付けた 綾瀬の子ども	
学校教育目標	心も体も健康な子どもを育成する ・礼儀正しく思いやりのある子 (清) ・ よく考え粘り強い子 (静) ・ 進んで行動できる子 (動)	
学校経営方針 (ランドデザイン)		
今年度の重点目標	自分のよさを知り、生き生きと輝ける子 【学ぶことが楽しい】・・・魅力ある課題(解決したい問い)、考えが広がる学び合い、自分の学びの振り返り 【人と関わることが楽しい】・・・相手の気持ちを考える、時と場をわきまえた言葉づかいと態度 【挑戦することが楽しい】・・・子どもたちが「やってみたい・できた」と思える行事や体験活動の充実	
取組分野	評価の観点	学校の自己評価と改善策
1 学習指導	学校は、「よく考え、粘り強い子」を育てるために、工夫や改善に取り組んでいる。	昨年度と同様80%以上の児童が進んで学習に取り組んでいると答えています。授業を始めとする学習全般においてこのように感じられることが、児童の自律的に学ぶ力の育成につながっていくと考えます。引き続き教員間で目指す児童像を共有し、「いきいきと学びを楽しむ」ことができるような課題の設定、児童間や学習材との対話をより効果的に活用する等の授業改善に取り組んでいきます。「学習の振り返り」にも継続して取り組み、児童が自分自身の学びの過程や変容を自覚できる場面を大切にしています。
2 教育課程	児童は、運動会や委員会、係活動、たてわり活動に積極的に参加している。	90%の児童が、行事や学校での活動が楽しいと答えています。また、保護者も9割以上が、児童は行事や活動に積極的に取り組んでいると評価しています。今後も各行事・各活動を通して、児童一人ひとりがいきいきと活躍できるように心がけていきます。また、児童にとっても豊かな体験活動(「やってみたい!!」という気持ちを大切に)ができるように、地域の皆様にもご意見ご協力をいただき、取り組んでいきます。
3 児童・生徒指導	学校は、「礼儀正しく思いやりのある子」を育てる指導を積極的に行っている。	児童、保護者ともに9割以上「あいさつをし、きまりを守って生活している」と答えています。今年度は登校から始業開始までの時間、民生委員の方々が校庭・校内の見守りを行ってくださっています。自分たちを支えてくれる人たちに意識をもつことができるよう働きかけることで、より礼儀正しく思いやりのある子を育てていきます。
4 児童・生徒指導	児童は友人や先生との学校生活に満足している。	多くの児童が「学校が楽しい」と回答しています。しかし学校は児童が安心して楽しく過ごせる居場所でないといけないという前提からすれば、数%の児童にとってそうではない事実は見逃ごせません。引き続き学級や学年を中心とした集団づくりを基本とし、児童の様子が気になる時は気持ちに寄り添って支援をしていき、全ての児童にとって「楽しい」と思える学校を目指していきます。その際チームでの対応を基本とし、多角的な視点で連携を図りつつ支援していきます。また今後も異学年での交流にも力を注いでいきます。今年度も実施した運動会のため種目のように、児童が主体となって工夫が生まれていくように支援していき、さらに縦や横のつながりが深まるようにしていきます。
5 児童・生徒指導	学校は、いじめの早期発見・再発防止のための取組を行っている。	62%の保護者が、いじめ問題に対しての学校の取り組みを認めています。これは、子ども達の関係が深刻になる前に教職員や児童、または保護者が気づき、連携して対処しているからではないかと思われます。一方で、保護者の24%が「わからない」と回答しています。学校の取組としては、見えにくい部分かもしれませんが、今後各学校だより等を通して、いじめ問題への取組や対応策について、積極的に発信したいと考えます。また、2%の保護者が「そう思わない」と回答していることを真摯に受け止め、いじめの早期発見と受け止め、再発防止に努めるとともに、教育活動全体を通して、思いやりの心やいじめをしない・許さない規範意識を育てていきます。
6 保健管理	学校は、「進んで行動できる子」を育てる指導を積極的に取り組んでいる。	80%以上の児童が、「自分から進んで規則正しい生活をしている」と答えています。引き続き心と体の健康に留意した保健指導を行うとともに、保健だよりで家庭と連携を図ることに努めていきます。また、「生活リズム大作戦」の実施や、朝の健康観察時の生活チェックを通して、規則正しい生活習慣を意識することができるよう指導していきます。
7 安全管理、教育環境整備	学校は、児童の安全のための指導や施設の点検・整備に取り組んでいる。	今後も通学指導ボランティアの方々や民生委員の方々、校外委員会を中心としたPTAの方々と連携し、児童が安全な登校ができるように努めていきます。また、消防・防災計画の検証や危機管理体制の徹底に取り組んでいきます。さらに、児童の実態に即し、より効果的な避難訓練や交通安全教室等を実施することを通して、児童の安全に関する意識を高めていきます。施設の点検整備を定期的に行い、児童が安心して生活できる学校づくりに努めていきます。
8 支援教育	学校は児童に応じた支援の工夫をしている。	90%以上の教職員が個々の児童に応じた支援の工夫をしていると答えています。今後においても、児童一人ひとりの実態把握に努め、全職員で共有しながら、よりよい支援ができるように努めます。また不登校傾向にある児童、保護者に対する有効な支援についてもスクールカウンセラーだけでなく、関係機関と連携しながら進めていきます。個々の児童に応じた支援のあり方について悩んでいる教職員もいます。相談ののりとともに研修の機会を設けていきます。
9 組織運営	校長を中心とした運営組織になっている。	来年度も学校教育目標をもとに、各グループが重点目標を定め、今年度の反省を生かして業務を改善し、学校運営に取り組んでいきます。全教職員が個々の特性を生かし、落合小学校の子ども達のため、協力していきます。また、4つのグループ間で日々連携を図り、経験の浅い教職員の人材育成に努めながら、学校教育目標の具現化に向け、全職員が一丸となって取り組んでいきます。
10 教職員の研修	学校は、教職員の力量を高めるための取組に力を入れている。	「何ができるようになるか」という児童の資質・能力を育成するために「どのように学ぶか」という子どもの目線から教材研究・授業改善に臨み、教職員一人ひとりの授業力を今後も高めていきたいと考えています。そのため校内研究や積極的なJIT、また校外の研修等を通して教職員同士の技術の継承、思いを実現させるための対話を一層大切にし、それぞれの持ち味を生かしながら、お互いに高め合える教職員集団を目指します。
11 教育目標・学校評価	学校は、児童の実態を把握し、よりよい児童の成長のための工夫をしている。	80%以上の保護者が、学校は子どものよさを大切にした指導をしていると答えている一方で、子どものよさが大切にされていないと感じている保護者もいることを真摯に受け止め、これまで以上に全職員で子どもたちの様子に目を配り、個に応じた指導ができるように努めていきます。家庭との連携を密にしたり、子ども達の頑張りを成長を共有し、フィードバックしていくことにも努め、より一層、児童一人ひとりが大切にされていると感じられる学校づくりを行っていきます。
12 情報提供、保護者・地域住民との連携	学校は、保護者などに適切な情報を提供し、連携を図る取組を行っている。	90%近い保護者が、学校から情報を得ていると答えています。来年度も学校だよりや学年だより等の各種おたよりを通じて、保護者の方への情報発信を心がけていきます。また、電話連絡や学校配信システムを活用し、必要な情報を迅速にお伝えするようにします。さらに、行事等を通して、子ども達の頑張りを保護者にお伝えできるようにします。個別面談や懇談会では、学校や家庭での子どもの様子を共有し、連携を図っていきます。また、学校運営協議会やボランティアの方とは、これまで築いてきたつながりを大切にしながら、児童の学習活動がより豊かになるよう、連携をしていきます。学校評価でいただいた保護者の皆様の声も、今後の学校運営に生かしていきます。
【学校運営協議会からの意見及び改善策】 ・児童が意欲的に行事等に取り組んでいると答えているのは、教師からやらされているという感覚ではなく、自分たちでできているという達成感、成就感が感じられるからではないか。今後も教師が児童の主体性を育みながら、上手に導いてほしい。 ・いじめの早期発見の定義は保護者の価値観によって違う。学校の取組も見えにくく伝わりにくい部分ではあるが、毎月のスクールアンケートや、いじめ防止キャンペーンの取組等、今後も確実に説明し、発信していくことが必要である。 ・約10%の保護者が、子ども達の良い点を伸ばす努力をしていないと感じている。教師が児童の様子に目を配り、ポジティブな声かけ(誉め言葉)が、保護者にも伝わることで、教師の思いが伝わるような関わりができればよい。 ・言葉遣いに関しては、学校だけではなく、家庭との連携が必要。保護者の意識をどう持たせるかが課題である。 ・挨拶は地域の大人が手本となることも大事である。そこから顔見知りになり、つながっていくことがコミュニティスクールの意義でもある。		